

労務理論学会ニュース

労務理論学会ニュース 32号 2012.12.3
〒580-8502 大阪府松原市天美東5-4-33
阪南大学研究部研究助成課内
労務理論学会事務局
電話 072-332-1224 (内線 3714) FAX 072-336-2633
E-mail jal@hannan-u.ac.jp

【目次】

1. 2012年新役員、編集員の選出結果のお知らせ
2. 澤田幹会長代理挨拶。(澤田先生)
3. 木元進一郎先生を偲ぶ(長谷川先生)
4. 第22回全国大会(阪南大学)の様子・・・開催大学.
5. 拡大理事会(2012年第22回全国大会前)議事録
6. 労務理論学会第22回大会総会(2012年)議事録
7. 労務理論学会理事会年議事録
8. 労務理論学会理事会(2012年9月)
9. 第23回全国大会(2009年6月)のテーマ及び概要
10. (研究奨励賞・学術賞)候補作品の推薦募集
11. 学会誌への投稿論文の募集
12. 第22回全国大会以降の地方部会報告
13. 会員転居情報&入退会者報告
14. 事務局から

次年度の全国大会は、2013年5月31日から6月2日に日本大学商学部で開催する予定です。

1. 2012年新役員、編集委員の選出結果のお知らせ
理事会の承認を経て、2012年新役員、編集委員の選出結果をお知らせ申し上げます。

副会長(会長代理) 澤田幹 (金沢大学)、総務担当常任理事 (東) 平澤克彦 (日本大学)、 総務担当常任理事 守屋貴司 (立命館大学)

理事) 関東

大野実 (東京都社労士会)、國島弘行 (創価大学)、田口典男 (岩手大学) 【東北】、那須野公人 (作新学院大学) 堀龍二 (駒澤大学)、松下幸生 (米沢女子短期大学)、明泰淑 (札幌大学) 【北海道】、

理事) 関西

岡田行正 (広島修道大学)、加藤正治 (阪南大学)、竹田昌次 (中京大学)、長井偉訓 (愛媛大学) 【中国・四国】、幸 光善 (大分大学) 【九州】

会計監事

永山利和 (日本大学)、 安井恒則 (阪南大学)

西日本) 幹事

山本大造 (愛知大学)、橋場俊展 (名城大学)、谷本啓 (同志社大学)、中村艶子 (同志社大学) 小松史朗 (近畿大学)、藤野真 (福岡大学)

東日本) 幹事

佐藤飛鳥 (東北工業大学)、山田雅俊 (玉川大学)、所伸之 (日本大学)、藤田実 (桜美林大学) 山縣宏寿 (諏訪東京理科大学)

西日本) 編集委員長

竹田昌次 (中京大学)

西日本) 編集委員

小松史朗(近畿大学)、島内高太 (三重短大)、谷本 啓 (同志社大学)、田村 豊(愛知東邦大学)、橋場俊展 (名城大学)、藤野真 (福岡大学)、守屋貴司(立命館大学)、山本大造 (愛知大学)

東日本) 編集委員長 國島弘行 (創価大学)

東日本) 編集委員

平澤克彦 (日本大学)、劉永鵠 (東洋大学)、鬼丸 朋子 (國學院大學)、青山秀雄 (作新学院大学)、岡田寛史 (岩

手県立大学)、奥寺葵 (千葉商科大学商経学部)、山田雅俊 (玉川大学)、原みどり (中央大学)

敬承略

2. 澤田幹会長代理挨拶

皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、去る6月に開催されました総会における選挙で新理事が選出され、その中から互選により駒澤大学の堀龍二先生が新会長として選出されました。ところがその後諸事情により堀先生が会長辞任を表明されました。

これをうけて、9月に行われました理事会で今後の対応を検討した結果、当面の間、会長を置かず、副会長である澤田が会長代理を務めさせていただくこととなりました。何分にも経験不足、能力不足のため、どの程度学会のお役にたてるのか、大変心もとないところですが、東日本総務担当理事の平澤克彦先生 (日本大学)、西日本総務担当理事の守屋貴司先生のお力添えを受けて、微力ながら学会発展に少しでも寄与すべく努力してまいりますので、どうかよろしく願い申し上げます。

なお、事務局に関しましては、当面の間引き続き阪南大学でご担当いただけることになりましたことを、あわせてご報告いたします。また、理事会といたしましては、来年の全国大会時には新会長を選出して、本格的な体制を整えていく所存であることを申し添えます。

3. 木元進一郎先生を偲ぶ

中央大学名誉教授 長谷川廣

労務理論学会創設の貢献者であり、その初代副会長や第二代会長(1994~97年)を務められた木元進一郎先生(明治大学名誉教授)が今年(2012年)5月25日に惜しくも逝去されました。謹んでお悔やみを申し上げます。

木元先生と私は、実は出身大学こそ違え、その卒業年次(1950年)も、年齢(84歳)も全く同じだったのです。それだけに寂しさもひとしお身にしみました。

木元先生は、ご承知のように明治大学の名誉教授で労務管理論の研究者でした。この点では私も同じ専攻でしたが、その違いは木元先生の研究の偉大さにあります。単著だけでも『人事

管理の基本問題』泉文堂、1954年から始まって、『労働組合の「経営参加」』森山書店、1964年、『労務管理—日本資本主義と労務管理—』森山書店、1972年、『労務管理と労働組合』労働旬報社、1974年、『労務管理と労使関係』森山書店、1986年等々、これにその他の単著や共著、編著、監修などの著書を加えると優に20部かそれ以上になるでしょう。そして1972年には、「経営参加制度研究—経営参加制度の日本の特質と変遷に関する研究—」によって、明治大学から経営学博士号を取得しておられる。

このように木元先生の場合、日本の労使関係、とりわけ労働組合の「経営参加」を中心に研究されてきたといえるようです。この点で私のように労務管理、とくに人事管理を中心とした労務管理制度や技術を中心に研究してきたのとは少し違います。だからといって労務管理の研究で喧嘩をしたり、批判したりしたことはあまりありません。それは労務管理を経営者側の立場からではなくて、労働者や労働組合側の立場に立って批判するという点である程度類似性をもっていただけかもしれません。ですから私の方の「特別研究期間」制度による休みの期間中、私の大学での労務管理論の講義を代講してもらったりしたこともあったのです。その時、私は学生達に「木元先生の講義は学術的・理論的だから講義にきちんと出席してよく聞くように」、というようなことを言った覚えがあります。学生の評判も可成り良かったと思います。

そう言えば、イギリスへの留学(1964~65年)も不思議なことに木元先生と一緒にしました。私の方がちょっと早かったせいか、下宿探しを手伝ったりもしました。経営者団体や労働組合組織も一緒に訪ねたりもしました。とりわけ忘れ難いのは、イギリスの著名な労使関係研究者であるクレグ教授(Prof.H.C.Clegg)と一緒に訪問したことです。この訪問は、おそらく木元先生なしには実現していなかっただろうと、今更のように感謝しています。

ところで、木元先生は明治大学在職中には、学内では経営学部経営学科長(1971年10月~72年9月)に加え大学院経営学研究科委員長(1980年4月~84年4月)、および明治大大学院委員長(1984年~89年3月)など、主として研究面の要職を担当されていますが、その間学外においても存分に活躍され、他大学への非常勤講師も多く、埼玉大学や東京教育大学など7大学にも及んでいます。また常葉学園浜松大学では、大学院経営学研究

科(1996年4月~2003年3月)、次いで同大学学長(1999年4月~2002年3月)などを務められています。

さらに学会の役員も多く、労務理論学会はいうまでもなく、日本経営学会理事(1968年10月~74年7月、77年10月~83年9月)、日本労務学会理事(1971年5月~75年6月、81年5月~83年4月、85年5月~87年4月、87年5月~89年4月<常任>)、社会主義経営学会理事(1976年4月~80年3月、84年4月~88年3月)などを務められています。

その他、日本学術会議経営学研究推進委員会委員や日本私立大学連盟大学問題検討委員などの担当もあります。

このように見ますと、木元先生の偉大さ、学会における地位、そしてそこでの活動もわかってもらえるのではないのでしょうか。ほんとうにご苦勞さまでした、と申し上げたいと存じます。

さいごに、木元先生の労務理論学会へのご貢献に対してあらためて深く感謝致しますとともに、在学中に育てられた多くのゼミ卒業生たちをも加えて、今後とも労務理論学会の発展を見守って下さるようお願い申し上げます。

木元先生のご冥福を心からお祈り致します。

4、第22回全国大会(阪南大学)報告

第22回全国大会実行委員長 加藤正治

労務理論学会第22回大会は、月15日(金)~17日(日)の3日間、「中小企業における経営労務の課題」を統一論題にして、阪南大学南キャンパスにおいて開催されました。16日は雨模様でしたが、本大会には全国より100名を超える多数の学会員の参加を得て活発な議論が展開



れ、滞りなく開催できたことを、開催校の会員一同、大変感謝しております。

大会では、16日には開会式に引き続いて、3つの会場に分かれて、10の自由論題報告(午後に行われた2報告を含む)、2つの社会保険労務士セッションの報告が行わ

れました。自由論題では若手研究者による興味深い報告がなされるとともに、活発な質疑が繰り広げられました。社会保険労務士セッションでは、貴重な現場の事実に基づく考察がなされ意義深いものでした。午後からは特別セッションでは田口典男氏（岩手大学）グループによる「東日本大震災下の中小企業再生と雇用問題」の中間報告がなされました。3時より本大会の統一論題との関わりにおいて「人を生かす経営」と題した特別公演がなされました。永山利和氏（日本大学）の司会のもと、大橋正義氏（株式会社大橋製作所 代表取締役）と中島幸子氏（N 総合会計 代表取締役）という東西の中小企業同友会の指導者の方からご講演をいただきました。この講演は阪南大学大学院企業情報研究科との共催で多数の企業家および学生に一般公開されました。この講演の詳細は、阪南大学大学院の研究科年報に収録予定です。その後、会員総会と懇親会が開催され、懇親会には多数の会員が参加され親睦が深められました。

翌17日は午前統一論題報告が、4人の方よりなされました。報告者の方は、永山利和氏（日本大学）、松村加代子氏（建設政策研究所）、島袋隆志氏（明治大学）、関智宏氏（阪南大学）の4名です。午後自由論題2報告の後、4名の報告者に加え平澤克彦氏（日本大学）と鬼頭統治氏（全国社会保険労務士会連合会副会長）の2名の6氏のパネリストからなる統一論題シンポジウムが司会の澤田幹氏（金沢大学）および清山玲氏（茨城大学）のもと開催されました。経営労務が多面的な問題を持ち、非正規従業員が35%強であることや年収400万円以下の所得階層が43%である社会状況で、国民のための労務理論に期待されるものは極めて大きいと言えます。その中で中小企業の労務問題を取り上げた本大会の統一論題シンポジウムが労務理論の発展に寄与するものであろうと期待します。

会員の皆様のご協力をいただき第22回大会が意義あるものになったこと、まことにありがとうございました。

5. 拡大理事会（2012年第22回全国大会前）議事録

開催日時： 2012年6月15日（金）14:00-17:00

開催場所： 阪南大学南キャンパス 9号館 2F 9C 会議室

出席者： 【会長】安井恒則 【副会長】永山利和

【総務担当理事】那須野公人、井上千一

【理事】岩城猪一郎、岡田行正、堀龍二（東日本）

加藤正治、澤田 幹、長井偉訓、幸光善、森田園子（西日本）

【幹事】島袋隆志、松下幸生（東日本）

井藤正信、小松史朗、関智宏（西日本）

【会計監事】黒田兼一、三島倫八

審議事項

1. 新入会員の承認及び退会会員の報告、会費滞納者、会員総数について

(1) 新入会員の承認

計12名の新たな入会が承認された。

(2) 退会会員についての報告

自然退会（4名）、依願退会（5名）、会費未納退会（2名）の計11名の退会が報告された。

(3) 会費滞納者について

複数年度分にわたる会費滞納者21名の報告があり、納入督促につき理事・幹事による工夫に期待が表明された。

(4) 会員総数

2012年6月15日拡大理事会終了時点の当学会会員数は、324名であった。

2. 学会賞について

(1) 2013年度学会賞について

下記の通り、永山利和副会長（学会賞選考委員長）、堀龍二理事（学会賞選考委員）より、2012年度労務理論学会賞についての報告があった。

被推薦者

① 奨励賞： 該当者なし、 ② 学術賞： 被推薦者1名（審議過程）

学術賞に被推薦者が1名あるが、受理日が締め切りの後ではないかとの判断により審査に入らなかった。その扱いについて議論した結果、次期理事会において構成さ

れる審査委員会において審議を行うとの扱いになった。

(2) 学会賞選考方法について

永山副会長より、学会賞被推薦者を学会で審議するのに当たって、複数の選考委員によって審議する体制を強化すべしとの提案があった。

3. 名誉会員の推薦と推薦基準について

藤井治枝会員を名誉会員に推薦したいとの提案があり総会の承認を受けることに決定。

なお、今後の推薦基準については、原則として、①理事経験者、②定年退職者、③理事会にて推薦、という3つの条件を満たし、理事会の議を経て総会の承認を得た会員とする、との提案があり承認された。

4. 2011年度活動報告

(1) 第21回大会

第21回大会は、2011年6月10-12日にかけて中央大学多摩キャンパスにて開催された。第21回大会は、「若者の雇用と人材育成」という統一論題の下、全国から100名を超える多数の学会員の参加を得て盛況であった。また、同大会では、当学会設立満20周年を記念して、George Olcott氏による講演が行われた。

(2) 地方部会

① 関西・近畿部会

1) 日 時： 2011年7月16日 午後3時～5時
場 所： 立命館大学びわこくさつキャンパス・エポック立命 21 K305
報告者：グエン・ティ・トウエット・マイ氏（ベトナム国民経済大学開発経済研究所所長）

* 司会：高橋由明会員 中央大学商学部

報告テーマ： ベトナムの企業経営と経営労務

2) 日 時： 2011年12月18日 午後1時30分～午後5時

場 所： キャンパスプラザ京都

報告者及び報告テーマ：

- ・中瀬哲史氏（大阪市立大学）「東京電力福島第一原子力発電所事故後の日本の電力供給システム」
- ・重本直利氏（龍谷大学）「ドラッカー目標管理とフォレット動態的管理の再評価」

② 中部・北陸部会（中部企業経済研究会、日本労務学会中部部会との合同研究会）

日 時：2012年3月24日 午後1時～
場 所：中京大学名古屋学舎センタービル7階07A教室

報告者：・中山嘉氏（金沢大学大学院）
佐藤政人氏（(株)HRコンサルティング代表）
願興寺ひろし氏（南山大学）

(3) 労務理論学会誌

『労務理論学会誌』第21号の編集・発刊について、堀龍二 学会誌編集委員長より、次の報告があった。

①発行費： 84万円（第20号と発行費頁数ともに同じ）
* 晃洋書房が印刷のみならず袋詰め作業にも尽力して下さった。（袋詰め等経費：10万円）

②今後の課題

文字数規定を守らない（ワープロの表示文字数で文字数をカウントする等）など、投稿規程を無視して投稿してくる者が多い。

→ 次回理事会に引き継いで、対策を検討して頂く。

(4) 関連学会連合・協議会関係

次の通り、関連学会連合・協議会関係の報告があった。（詳細については割愛）

- ①日本経済学会連合（永山副会長、那須野理事より）
- ②経営関連学会協議会（那須野理事、堀理事より）
- ③社会政策関連協議会（永山副会長、堀理事より）

5. 2011年度決算及び監査報告について

森田理事より、2011年度学会収支決算報告書案が提出され、これについての審議が行われた。

・支出項目中の「当年度支出」の項目が不要である旨の指摘があり、これを削除した。

6. 2012 年度予算案について

森田理事より、2012 年度学会予算案が提出され、これについての審議が行われた。

(審議内容)

- ・2012 年度予算における学会賞奨励金の扱いについて
2012 年 6 月 15 日時点で 2012 年度学会賞受賞者がいないことが判明している。
→ 2012 年度予算の支出項目に「2011 年度学会賞」10 万円を計上しておいて、2012 年度決算時にその「実績」を 0 円として計上することで合意された。

7. 学会ホームページの運営に関連して

井上理事より、学会ホームページの運営に関連して、次の報告があった。

- ・学会ホームページのドメインは既に変更済みである。
- ・入会申込書がダウンロードできなかった件については、既に解決済みである。
- ・学会ホームページの実質的な運営は、渡部あさみ氏 (明治大学大学院) が担当している。

8. 2013 年度全国大会 (第 23 回大会) 開催校について

安井会長より、労務理論学会全国大会第 23 回大会は、2013 年 6 月 7-9 日あるいは 6 月 14-16 日に、日本大学商学部にて開催される予定であることが紹介された。ただし、正式決定は学内手続きを経て承認を得てからとなる。

9. 『労務理論学会誌』第 22 号の発行と編集について

『労務理論学会誌』第 22 号投稿論文の提出先は、次期理事の中から選ばれる編集担当常任理事宛てとなる旨の説明があった。

10. 第 22 回会員総会について

6 月 16 日の会員総会において実施される学会役員・会計監事の選出に当たっては、井上千一理事が選挙管理委員長を務め、現幹事が選挙管理委員として投票用紙などの配布や集計を担当することが決定した。

11. その他

(1) 2014 年度 IFSAM 大会における労務理論学会セッション開催について

上記の件について、黒田会計監事より、次の提案が行われた。

① 2014 年 9 月には、IFSAM 大会 (於: 明治大学駿河台校舎) と日本経営学会第 88 回大会 (於: 国士舘大学) が同時期に開催される。

そこで、黒田会計監事より、日本経営学会第 88 回大会に特別セッションを設けて、労務理論学会が外部報告者 (外国人研究者) を招聘してシンポジウムを企画・運営することが提案された。

さらにこの件に関わって、永山副会長より、そのシンポジウムでは、外部報告者と共通した報告ができる日本人の若手研究者も報告者に加えることで、学会の国際化と若手研究者の育成を図ることも提案された。

②黒田会計監事より、外部報告者を海外から 2 名ほどを招聘することが提案された。

以 上

6. 労務理論学会第 22 回大会総会 (2012 年) 議事録

日 時 : 6 月 16 日 (土) 17:00~18:00

会 場 : 阪南大学南キャンパス 9 号館 1 階アセンブリホール

議 事

1. 会員の現勢

12 名の新会員が承認され、11 名の退会があった。会員現勢は 324 名である。

2. 2011 年度活動報告

(1) 第 21 回全国大会報告

第 21 回大会は、2011 年 6 月 10-12 日にかけて中央大学多摩キャンパスにて開催された。第 21 回大会は、「若者の雇用と人材育成」という統一論題の下、全国から 100 名を超える多数の学会員の参加を得て盛況であった。また、同大会では、当学会設立満 20 周年を記念し

て、George Olcott 氏による講演が行われた。

(2) 地方部会報告

1) 関西・近畿部会

2011年7月16日(立命館びわこ草津キャンパス)と12月18日(キャンパスプラザ京都)の2回開催された。詳細は割愛。

2) 中部・北陸部会

2012年3月24日(中京大学名古屋学舎)に開催された。詳細は割愛。

(3) 関連学会連合・協議会

日本経済学会連合、経営関連学会評議会、社会政策関連協議会の活動内容について担当理事より概略の紹介があった。詳細は割愛。

(4) 学会誌第21号の発行

『労務理論学会誌』第21号の編集・発刊について、堀龍二 学会誌編集委員長より、報告があった。

3. 2011年度決算案について

森田財務担当理事の2011年度決算案報告の後、三島会計監事より会計報告書が適正である旨の報告があった。決算案について異議なく承認された。

4. 2012年度予算案について

森田財務担当理事より2012年度予算案が提案され承認された。

5. 学会ホームページの運営について

井上HP担当理事より、Webサイト運営の変遷と現状について説明と紹介があった。

6. 2012年度予算案について

森田財務担当理事より2012年度予算案の説明があり審議、承認された。

7. 次期役員・会計監事の選出

井上千一会員を選挙管理委員長に選び次期理事及び会計監事の選挙が行われた。

選挙結果は下記のとおりである。

【東日本】

大野 実 (東京社会保険労務士会)
國島弘行 (創価大学)
田口典男 (岩手大学)
那須野公人 (作新学院大学)

平澤克彦 (日本大学)

堀 龍二 (駒澤大学)

明 泰淑 (札幌大学)

【西日本】

岡田行正 (広島修道大学)

加藤正治 (阪南大学)

澤田 幹 (金沢大学)

竹田昌次 (中京大学)

長井偉訓 (愛媛大学)

幸光善 (大分大学)

守屋貴司 (立命館大学)

【会計監事】 永山利和 (日本大学) 安井恒則 (阪南大学)

敬称略

8. その他

(1) I F S A Mの日本開催に関連して

黒田会員より、2014年9月に日本で開催されるI F S A M総会開催に関連して労務理論学会にも協力をお願いしたい旨の発言あり。関連して複数のシンポジウムを開催するが、労務理論学会にも企画開催を担っていただけるよう、次期の理事会にて優先的に取り組んでいただけるよう要望が出された。次期理事会への引継事項とすることが確認された。

(2) 研究奨励基金残高に関連しての発言

研究奨励基金の残高が少なくなっていることに関連して発言があった。社会保険労務士連合会付属の労務管理研究センターからの寄付がなくなったことが影響している。このままでは基金が枯渇する恐れがある。寄付金を集めるなどの工夫と努力を次期の理事会に期待したい。

報告事項

1. 学会賞について

2011年度は奨励賞、学術賞とも該当者はなしとの報告がなされた。

2. 『学会誌』第22号の発行と編集について

現編集長の下で次期編集長に引き継ぐべき準備を進めている。実際の編集作業は次期理事会にて選ばれる編

集長と編集委員会によって行われる。

3. ABM誌について

担当の守屋理事よりABM誌の現状について紹介があった。ABM誌の総編集長は会員の長谷川治清氏であったが、最近総編集長の交代があった。

4. 2013年度全国大会開催校について

来年度の全国大会開催校については、日本大学商学部を予定している。ただし、学内の手続きが必要となる。そのため正式決定は9月以降となる。関連して永山理事から、開催の方向で内諾を得ている、正式決定が得られ次第、新理事会に報告するとの発言があった。

7. 労務理論学会理事会 2012年6月17日議事録

開催日時： 2012年6月17日（日）

開催場所： 阪南大学南キャンパス 9号館 2F 9C 会議室

出席者：新理事：堀龍二、大野実、那須野公人（東日本）
岡田行正、加藤正治、竹田昌次、長井偉訓、幸光善、守屋貴司（西日本） 旧理事：永山利和、安井恒則、井上千一、森田園子

旧幹事：島袋隆志、藤原篤志、松下幸生（東日本）

小松史朗、関智宏、谷本啓、田村豊、橋場俊展（西日本）

旧会計幹事：黒田兼一、三島倫八（敬称略）

*新理事に再任された旧理事の方については、新理事の方にお名前を記載しております。

審議事項

第8期（2012.6.17-2015.6.16）理事選挙結果の報告及び役員選出

(1) 第8期理事選挙結果の報告

【東日本】

大野 実（東京社会保険労務士会）

國島弘行（創価大学）

田口典男（岩手大学）

那須野公人（作新学院大学）

平澤克彦（日本大学）

堀 龍二（駒澤大学）

明 泰淑（札幌大学）

【西日本】

岡田行正（広島修道大学）

加藤正治（阪南大学）

澤田 幹（金沢大学）

竹田昌次（中京大学）

長井偉訓（愛媛大学）

幸光善（大分大学）

守屋貴司（立命館大学）

敬称略

(2) 第8期役員を選出結果

【会長】 堀 龍二（駒澤大学）

【副会長】 澤田 幹（金沢大学）

【総務】 平澤克彦（日本大学） 東日本

守屋貴司（立命館大学） 西日本

【編集】 國島弘行（創価大学） 東日本

竹田昌次（中京大学） 西日本

敬称略

(3) 財務担当および事務局について

役員分担について引継理事会では上記の会長、副会長、総務担当、編集長のみ決め、財務担当および事務局については9月に予定される理事会にて審議決定することとなった。

8. 第8期労務理論学会第1回理事会議事録 (2012年9月7日)

2012年9月7日 13時から15時

日本大学商学部に於いて開催

出席) 堀龍二、澤田幹、平澤克彦、守屋貴司、明泰淑、幸光善、竹田昌次、国島弘行、那須野公人

欠席) 田口典男、岡田行正、加藤正治、長井偉訓

1. 会長の辞任

堀会長の一身上の理由から辞任を申し出られ、理事会において承認されました。堀会長は、会長を辞任され、理事として留任されることが決まりました。

2、副会長の会長代理へ

堀会長の辞任に伴い、新会長の互選による選出について論議なされ、他薦・自薦ともになく、来年時の全国大会の理事会まで、労務理論学会・会則によって、副会長が、会長代理となることが承認されました。

3、会長代理の推薦による理事の推薦

会長代理より会計理事として前期幹事をされた松下幸生会員(米沢女子短期大学)、が推薦され、承認されました。

4、事務局について

事務局は、堀会長の辞任にともない、当面、前会長の所属大学の阪南大学にて、継続して暫定的におくことが承認されました。阪南大学でも継続して暫定的にお引き受けして頂けることを了承頂いております。

5、国際化推進委員会担当理事に辞任と労務理論学会の国際化の方向性と再検討

国際化推進委員会担当理事より総務担当理事との兼任等の負担が大きいのと一身上の理由から、国際化推進委員会担当理事の辞任の申し出があり、承認されました。今後、労務理論学会として、IFSAMを、はじめとした国際化に関して理事会として引き続き検討することとなりました。

6、関連学会協議会の評議員・協議員の確定

理事会において、下記のように担当者が確定されました。

- ①日本経済学会連合 (那須野先生)
- ②経営関連学会協議会 (国島先生)
- ③社会政策関連学会協議会 (国島、那須野先生)

7、学会賞選考委員会の委員と委員長を選任

(A) 学術賞担当委員

慣例によりますと元会長もしくは現副会長としていますが、理事会にて協議した結果、学会賞の受賞者である猿田正機先生に学術賞の選考委員会の委員長をお願いすることとなりました。そして、学会賞の選考委員長が、学会賞推薦書その分野専門研究者に査読を依頼し、学術賞にふさわしいかを検討して頂き、その査読結果を参考として、学会賞選考委員会において審査をおこなうこととなりました。したがって、学会賞受賞者を委員長として、総務担当理事2名の3名を学術賞担当委員とすることとなりました。

(B) 研究奨励賞

現編集委員長2名と理事の長井先生の3名とすることが理事会で承認されました。

8、幹事の委嘱について

幹事の委嘱については、東西の総務担当理事が推薦し会長代理が承認するとの手続きが承認されました。

9、第23回全国大会について

日本大学商学部において開催することが申請され、日本大学商学部内において所定の手続きおこなわれている状況であることが、主催大学所属理事より報告がありました。

10、労務理論学会年報に関して

順調に、労務理論学会年報*号の編集は順調にすすんでいるとの報告が、竹田編集委員長よりご報告がありました。

9. 第23回全国大会(2013年6月)のテーマ及び概要と報告者の募集

第23回全国大会は、日本大学商学部において、開催されます。奮ってご参加ください。

第23回 労務理論学会全国大会統一論題趣旨

プログラム委員会にて検討し、理事会（メーリング理事会）において、第23回 労務理論学会全国大会統一論題が審議決定いたしました。

1) 2013年度 労務理論学会統一論題プログラム

統一論題の趣旨

経済の「グローバル化」や、新自由主義的経済・労働政策が進展するなかで、成果主義への人事の基調転換、ワーキングプアに象徴される不安定就労層の増大、さらに個別紛争処理の台頭にみられる労使関係の「個別化」など、世界的なメガ・コンペティションの広がりとともに、労働の世界も大きく変わりつつある。

こうしたなかで、経営学、労働研究においても、新自由主義の影響とともに、実証研究をもとに計量分析を行う研究方法の影響が増大し、研究方法のグローバル・スタンダードとさえみられるようになっている。

古林喜楽教授の経営労務論を嚆矢として、政治経済学を基盤に進められてきた労務理論は、こうした実証的な研究に対し、その科学性を主張することが求められている。だがその一方で、労働の世界の変容に対する分析は、労務理論の科学性を問い直すための試金石となっている。科学性を誇示してきた労務理論には、多様な現実を分析するための有効なツールであることを示すとともに、計量分析を基本とする実証研究に対するその存在意義を主張することが今求められていると思われる。

そこで第23回大会では、「労務理論の再検討」を統一テーマとし、グローバル化のなかで賃金、雇用、労使関係などの領域でどのような問題が生じているのか、そしてこれまでの「労務理論の到達点」を踏襲しながら、現実に展開している問題をどのような枠組みで把握したらよいか、そのためには労務理論をどのように発展させるのかを検討することにした。

したがって、本年度は、

統一論題

「労務理論の再検討」

サブテーマとして

1. 労務理論の到達点から考える賃金・雇用問題
2. 労務理論の到達点から考える労使関係
3. 労務理論の到達点から考える資本蓄積

の3つの側面から論題報告をおこないます。

これまで、統一論題の推薦・自薦をおこなってまいりましたが、プログラム委員会が、ご依頼するケースがほとんどで、大変、時間を要してまいりました。

本年度は、会長の一身上のご都合によるご退任もあり、学会の作業がとても滞っております関係上、もちろん、統一論題の自薦・他薦も受け付けますが、時間の制約と統一論題をご依頼する先生のご都合の関係もあり、プログラム委員会にて、できるだけ早期に、統一論題の依頼作業を進めさせて頂きたく存じます。統一論題の自薦・他薦の場合は、例年通り、プログラム委員長までお知らせください。

2) 例年どおり、自由論題のセッションを設けます。院生会員を含め本学会会員であればテーマに関わらず研究報告できます。また、従来の社会保険労務士の方々のご報告も研究者・院生報告と同じく自由論題セッションに含めることにいたします。

3) 書評セッションを設けます。書評セッションは、書評に値する書籍・資料、それらの評者を含め自薦・他薦してください。書籍名および評者のご応募をお願いします。最終的にはプログラム委員会がその採用是非を検討し決定することとします。

4) 社労士セッションも設けます。このセッションでの報告者、特に社労士の会員の積極的な応募を期待しております。

5) 特別セッション；会員提案・企画による独自のセッション希望するセッションのテーマ、報告予定者の応募をお願いいたします。採用の是非は、最終的にはプログラム委員会が決定いたします。

上記、ご希望の場合は、仮題と要旨を添えて（形式は自由）添えて、1月17日までに次ページのプログラム委員長までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

2012年度学会賞選考委員会委員長 猿田正機宛

統一論題・自由論題等報告希望送付先

プログラム委員長 平澤克彦

Katsuhiko427@aol.com

日本大学商学部

〒157-0073

東京都世田谷区砧 5-2-1

☎03-3415-2121

10. 本年度学会賞（研究奨励賞・学術賞）候補作品の推薦募集

(1)学会賞のうち研究奨励賞は、本学会の『学会誌』に掲載された論文を対象とすることになっています(第3条)
 (2)。また学術賞は会員から推薦された著作を対象とすることになっております。そこで本年度の学術賞受賞対象著作の推薦を以下の要領で募集します。学術賞に相応しいと思われる著作を、下記の要領で是非ご推薦いただきたく思います。

期日：2012年10月20日～2013年1月11日

推薦対象著作：2009年1月1日以降に刊行された労務理論学会の会員による著作物。推薦対象となるものは、出版（公刊）された単著の著作物、あるいは共著・編著の著作物である。ただし、後者の場合、推薦対象会員が、監修者・编者など実質的に研究執筆していないものは除かれる。

手続き：推薦しようと思われる会員は、

①推薦対象著作物の、執筆者、書名(論文名)、出版社、出版年月日、
 ②推薦理由、
 を明記し、学会賞選考委員長・猿田正機までお送り下さい。なお書式などは問いません。また郵送でもメールでも結構です。

【推薦文書送付先：学会賞選考委員長猿田正機】

中京大学経営学部

〒466-8666 名古屋市昭和区八事本町 101-2

TEL:(052)835-7111 FAX:(052)835-7197

E-mail : masakisaruta@aol.com

11. 学会誌への投稿論文の募集

『学会誌』第23号(2014年2月発行予定)に掲載する投稿論文を下記の要領で募集します。会員であれば大会報告者でなくても投稿できます。

投稿を希望する会員は、下記の「投稿規定(第7条)」に従って、労務理論学会誌編集委員長宛て簡易書留で郵送して下さい。

- (1) 論文の種類；研究論文、研究ノート、書評、その他
- (2) 提出締切り；2013年7月27日(金)締切り
- (3) 送付先；労務理論学会誌編集委員長 国島弘行
 Kuni92@soka.ac.jp
 創価大学経営学部
 〒192-8577
 住所：東京都八王子市丹木町1-236
 電話番号：042-691-2211(代表)
- (4) その他；論文は筆者名を厳密に秘匿して審査されるため、投稿者は本文中に執筆者と分かるような記述(氏名など)を避けるように注意して下さい。

※ 投稿希望者は、労務理論学会ウェブサイトないしは労務理論学会規定集の「投稿規定」の項目を一読していただき、その要項にもとづいて投稿してください。

12. 第22回全国大会以降の地方部会報告

1) 労務理論学会九州部会が開催されました。
 部会日時：2012年10月13日(土)午後2時から
 場所：九州大学大学院経済学研究院6階大会議室で研究報告がなされ、報告者は、劉宇(九州大学・院生)会員の「The Impact of Organizational Culture on Paternalistic Leadership in Chinese SMEs」と吉村大吾会員の(追手門学院大学)「政府のキャリア政策の動向と大学キャリア教育の現状とあり方」、そして、大石雅也(北海学園大学)「労働者メンタルクライシスの現状とその対策の先進事例」でした。研究報告会後、懇親会が盛会のもとにおこなわれました。

2) 下記の如く中部・北陸部会が開催されました。

第1回 (中部企業経済研究会との共催)

1. 日程・開催場所等

日時: 2011年10月22日(土) PM1:30~

場所: 名城大学10号館(研究棟)3階 第2大会議室

2. 報告者と報告タイトル

① チョウ・カ (名城大学大学院): 成果主義の現状と課題

② イ・ミスン (名城大学アジア研究所研究員): グローバル競争時代における人材育成について

③ 藤井 浩明 (名古屋市立大学研究員): 全国金属の団体交渉—統一闘争形成の背景—

第2回 (中部企業経済研究会、日本労務学会中部部会との共催)

1. 開催日時

2012年3月24日(土) 午後1時~

2. 開催場所

中京大学名古屋学舎(八事)センタービル7階07A教室

3. 報告者、報告テーマ

① 中山嘉 (金沢大学大学院)

「偽装請負キャンペーン後の対応—電機産業X社子会社F社を事例に—」

② 佐藤政人 (株HRコンサルティング(代表))

「超高齢化社会における高年齢者雇用のあり方—企業は厚生年金制度改正にどう対応すべきか—」

③ 願興寺ひろし (南山大学)

「中国における日本の人事管理の可能性—製造業におけるケーススタディー—」

④ 谷江武士 (名城大学)

「東京電力の経営分析—福島第一原発事故を中心に—」

13. 会員の入退会

第7期第7回拡大理事会 (2012.6.15) 承認分

植木 洋 (うえき ひろし) 立命館大学非常勤講師

第8期第1回持ち回り理事会 (2012.7.10) 承認分

丸山 美幸 (まるやま みゆき) 明治大学大学院

前嶋 靖 (まえじま やすし) 札幌大学大学院

第8期第2回持ち回り理事会 (2012.10.9) 承認分

劉 宇 (りゅう う) 九州大学大学院

村松 加代子 (むらまつ かよこ) NPO法人建設政策研究所

退会

仲田正機、王 雨蓉、木村純一、吉田和夫、河合博子
小野宗利 (2013年3月退会予定)

14. 事務局より

事務局は、会長辞任のため継続して前会長の安井先のほうでお引き受けいただく事となりました。そのため、事務局が機能しない、事務作業が遅滞することが予想されますが、現在の状況に鑑みご容赦くださるよう、何卒よろしく願いいたします。

会員情報が更新及び誤っている場合は、下記の事務局までご連絡ください。会情報が間違っている、個人情報で変更事項・情報等がありましたら、

1. 会員の氏名、所属を明記のうえ、下記 E-Mail まで変更内容をお送りください。

2. その後、事務局から返信のメールを送付し、それに対する確認のメールをもって了解とさせていただきます。または、事務局: e-mail: jalm@hannan-u.ac.jp までご一報ください。

※ 郵送の場合は: 〒580-8502 大阪府松原市天美東5-4-33 阪南大学研究部研究助成課内 労務理論学会事務局

あと、労務理論学会の諸ご連絡事項につきましては、労務理論学会ホームページに、随時、更新されるようになっておりますので、「労務理論学会ホームページ」までご覧頂きますようお願い申し上げます。

労務理論学会ホームページ↓

<http://www.jalmonline.org/>

下図は、学会ホームページのヘッドです。

